

作業計画書（添付資料）

1. 付近見取図
現場案内図
2. 建築物配置図
ア. 同一敷地内の全ての建築物、その他主要な構造物の配置図
イ. 掲示板の表示位置（10.）
ウ. 敷地境界等における大気中の石綿濃度の測定位置（11.ア.）
3. 建築物等の概要
建築物の構造、建築年、敷地面積等
4. 除去作業管理組織図
発注者、元請事業者、除去後に取り残しがないことを確認する者の氏名、石綿作業主任者、石綿工事に係る下請負人、石綿濃度測定業者、産業廃棄物管理責任者、産業廃棄物収集運搬業者、産廃処理業者等の一覧
※除去後に取り残しがないことを確認する者

建築物	<ul style="list-style-type: none"> ・一般建築物石綿含有調査者 ・特定建築物石綿含有調査者 ・一戸建て建築物石綿含有調査者（一戸建て等に係る作業に限る） ・石綿作業主任者（当該特定工事に係るものに限る）
工作物	<ul style="list-style-type: none"> ・石綿作業主任者（当該特定工事に係るものに限る）
5. 緊急連絡体制
6. 特定建築材料一覧
ア. 特定建築材料の一覧表（特定建築材料の種類、石綿含有率、使用箇所、使用面積等の一覧）
イ. 使用箇所の見取図（9.ア.と同一の見取図としてもよい）
ウ. 石綿使用面積の根拠
エ. 事前調査結果報告書や石綿含有分析結果の写し等（石綿含有の有無の判断根拠となる資料）
7. 工程表
以下の各作業期間がわかるもの
ア. 資材搬入－掲示板設置－足場設置－隔離養生－除去作業－測定－養生解除－清掃－産廃搬出
イ. 石綿濃度の測定予定日（石綿濃度の測定をする場合）（11.ウ.）
8. 除去等作業の方法
ア. 除去等作業の手順フロー（届け出工事で行う作業手順）
イ. 石綿の排出抑制・飛散防止の方法、除去や封じ込め・囲い込みの工法等
ウ. 集じん・排気装置の稼働状況の確認方法
エ. 作業場・前室の負圧確認方法
オ. 使用する集じん・排気装置の機種・型式・能力、設置数、換気計算結果（作業区画数ごと）
カ. 使用するフィルタの種類と集じん効率、フィルタの交換頻度
キ. 使用する資材と種類、その他特定粉じんの排出又は飛散抑制の方法
9. 作業区画の説明図
ア. 作業工事部分の見取図（作業区画の寸法、除去等箇所）（6.イ.と同一の見取図としてもよい）
イ. 隔離・養生箇所とその方法、前室（セキュリティゾーン）・集じん排気装置・排気口の位置等を色分け表示
10. 掲示の方法
事前調査結果及び作業方法に関する掲示板の写し（2.イ.の掲示板の写し）
（用紙サイズ：掲示はA3以上、添付資料の掲示の写しはA4）
11. 石綿濃度の測定計画
ア. 測定箇所（2.建築物配置図等に記載してもよい）
イ. 石綿分析方法（準拠規格）、測定分析会社
ウ. 測定時期（7.イ.工程表に測定予定日を記入すること）
敷地境界における大気中の石綿濃度の測定
 - ※大防法 除去作業開始直後、除去作業が長期に及ぶ場合は定期的に測定
 - ※環境確保条例
 - ・工事開始前（1回）
 - ・作業中（除去作業開始した日から、隔離シートを除去する日まで）
区画ごとに1回以上、6日ごと（作業しない日を含む）に1回以上
 - ・工事終了後（1回）
 負圧隔離養生内での総繊維数濃度測定
 - ※大防法 負圧養生解除前
 ※石綿濃度の測定を行わない場合は、石綿濃度の測定計画の添付不要
 （グローブバックは、石綿濃度測定代わりに、目視による飛散状況の監視でよい。
 ただし、グローブバックを複数繋げて複数人で石綿を除去する場合など、状況により敷地境界での石綿濃度測定が必要となる場合がある。）

1 2. 発生する特別管理産業廃棄物（廃石綿等）の処理計画

ア. 廃石綿等の発生量、処理方法、収集運搬業者、処分業者

イ. 現場内保管場所の位置を示す平面図（2. 建築物配置図等に記載してもよい）

1 3. 主な機材の仕様・性能が記載されたカタログ等

集じん・排気装置、HEPAフィルタ、微差圧計、エアシャワー、真空掃除機、エアレススプレーヤー、
粉じん飛散抑制剤、粉じん飛散防止処理剤、デジタル粉じん計など

1 4. 資格を証明する書類

除去後に取り残しがないことを確認する者（4.）、石綿濃度測定業者、特別管理産業廃棄物管理責任者、特別管理産業廃棄物収集運搬業者、特別管理産業廃棄物処分業者